

ナラ枯れすすむ

館山市 齊藤 陽子

房総の森でこの秋、ナラ枯れが目立ってきました。千葉県でも調査を行っているようです。

ナラ枯れとは

病原菌のナラ菌（カビの一種）はカシノナガキクイムシ（黒い小さな甲虫）の体に付き、虫が産卵のために木に穿入する際（6〜8月）に持ち込まれます。穿入された木は、菌に通水機能を奪われて枯れていきます。

侵される木はコナラ属、シイ属、マテバシイ属などのブナ科の樹木です。安房ではマテバシイの森が広がっていることから、マテバシイのナラ枯れが目立っていますが、コナラやアカガシなどでも発生しています。

カシノナガキクイムシは、樹皮の溝のところから入るので、太い木に被害が出ます。キクイムシが食害した後には茶色の木屑（フラス）が残るので、判別できません。

県では平成29年に鴨川市天津と館山市布良で、平成30年には白浜で確認されました。ナラ枯れに侵された木は最初茶色に枯れ上がりますが、2〜3年もすると落葉し、枝だ

けの白い木になります。

令和元年の台風による強風でナラ枯れの木は落葉し、白い木になりました。10月に千葉県樹木医会の企画で安房管内を道路沿いに見て回りましたが、特に鴨川市や白浜では、白い木と茶色の木が混在する森が広がっていました。

心配される災害と考えられる対策

ナラ枯れが進み、5年もすると根まで枯れて、倒れてしまいます。マテバシイの森は暗く、下層にほかの植物が育っていませんので、土を保持する力がなくなり、土砂崩れが心配されます。

単木なら、薬剤処理の方法があります。キクイムシが加害する前に、トリホリン剤（ウッドキング DASH）という樹幹注入剤を用いますが、高価です。あとは被害木を伐って、薬剤による燻蒸処理をすることです。しかし広い山全体を処理するのは不可能です。

現実的な対策は、部分的に危険な木を伐採し除去することです。鴨川市や南房総市は、補助事業による対策を検討しはじめています。

ナラ枯れの終息

カシノナガキクイムシは、日本在来の昆虫です。被害にあった他県の例では、全て枯れるのではなく、残る木があ

るそうです。そこからまたマテバシイだけではなく、ほかの樹木も混在する森への再生が始まります。

森林の遷移

人工的に一種の木が植えられているところを純林といいます。マツの例もあるように、純林は病害虫に弱い面があります。

様々な原因で木が枯れ、次の森林に移行することを遷移といいます。マテバシイの純林も、多種の木が存在する混交林に移行する、遷移の時期にあるものと考えられます。



ナラ枯れで落葉した常緑樹

【コラム】 布良のナラ枯れ病治療の報告

館山市 池田恵美子

館山市布良の安房自然村で遊歩道づくりを進めていた 2017 年夏、手作りのツリーハウスに使った1本のマテバシイが突然枯れた。幹は大丈夫だが、高枝の部分の葉が枯れたのである。樹木医の小池英憲氏に相談し、調査してもらったところ、「ナラ枯れ病」ではないかと診断された。10 年以上前から全国で広がっており、千葉県では鴨川市に次いで 2 番目の事例とのこと。行政に報告し相談したが、補助制度はないという。

2018 年夏より、樹木医の指導により素人ながら治療に取り組むことにし、まず枯れている高枝を伐り落とした。次に高価な薬品を購入して、幹に注入した後、ビニールラップとブルーシートを巻き付けて、根元は土を被せて、害虫の飛翔防止をした。

経過観察をおこないながら、治療効果が確認できた 2019 年春にラップとブルーシートを外し、治療完了とした。その後、近隣の山に同じ症状が広がることはなく、ひと安心していたが、9 月 9 日の巨大な台風 15 号で山は倒木だらけに荒れ果てた。

住宅被害の支援が一段落した 2020 年春、入山して状況を確認し、少し整備した。夏頃から安房全域で枯れ木が目立ち始め、ナラ枯れ病が一気に拡大したことが分かった。房総の豊かな常緑樹を蘇らせることはできるのだろうか。